

公衆衛生委員会

平成 24 年度第 1 回公衆衛生研修会

平成 25 年 1 月 28 日品川歯科医師会館にて平成 24 年度第 1 回公衆衛生研修会が行われました。講師には昭和大学歯学部 顎口腔疾患制御外科学講座の教授である新谷悟先生を招き、「歯科医師は口腔がんのキーパーソン」というテーマでお話しされました。

日本人の死亡原因の中でがんは第 1 位で、2 人に 1 人はがんにかかり、3 人に 1 人はがんで亡くなる。その中で口腔がんは 2～4% で男性に多く、60 歳代が最も多いそうです。早期がんの発見で 5 年生存率が 90%、進行がんの 5 年生存率は 70% 程度ですが、手術以外に 1 ヶ月以上続くつらい抗がん剤治療や放射線治療、その後の口腔の形態の大きな変形や機能障害を伴うそうです。出来るだけ早期発見が望ましいのですが、口腔内をじっくり見ることが出来るのは我々歯科の臨床医で、早期発見がどれほど患者さんのためになるかを知ることができました。

口腔がんの危険因子として喫煙、飲酒、慢性的な機械的刺激、食事などの化学的刺激、炎症による口腔粘膜の障害、ウイルス感染、加齢が挙げられるそうです。スライドで口内炎、扁平苔癬、白板症、口腔がんの見分け方の提示がありました。視診ではわかりにくく触診で厚みがあるのががんの特徴だそうです。生検に出すか、やはり口腔外科に紹介するのが一番だそうです。

昭和大学歯学部口腔外科では歯科医師会と一緒に口腔がん検診に力を入れられ、少しずつですが早期発見の成果が出てきているとのことでした。



新谷 悟 先生

最新のがん治療も紹介され、サイバーナイフといった局所的に放射線を当てられる機器、免疫療法では自己がん組織樹状細胞療法、鑑別診断法ではセンチネルリンパ節生検などを紹介されました。

外科後のリハビリテーション法としてインプラントや温熱処理法による顎骨再建法、術後の変形を最小限にする頸部廓清術など紹介されました。

今回の講演会で我々歯科臨床医の口腔粘膜疾患に対する見る目や注意深さを高めることで、なかなか遭遇することは少ないですが、口腔がんの早期発見につながり、命を救うばかりでなくその後人生にも大きな影響を与えることがわかり、大変勉強になりました。今後、品川区、品川歯科医師会も口腔がんの検診に参加していけるといいと思いました。

(名村 大輔)